

GLOBAL REPORT

第32号 3月24日

突然ですが、グローバルに活躍するために必要なことはなんだと思いますか？

「グローバル」とは、世界的な規模。グローバルに活躍するということは、国境を関係なく地球を1つのものとして動くこと。そのために必要なものはなんでしょう？

今回のグローバルレポートでは、島根県に拠点を置きながら、アメリカ、カナダなど海外にも製品を販売するなど、グローバルに活躍されている川田康二氏にお話を伺いました。

【グローバルに活躍する私たちの先輩】

津山屋製菓株式会社 代表取締役社長 川田康二氏(本校 37 期卒業生)



寒天を原料としたお菓子の製造、カフェ併設の直営店「いづも寒天工房 出雲大社参道本店」と EC サイトの運営を行う。

国内販売だけでなく、現在、年間3～4回海外へ渡航し、まだ他社が踏み込んでいない新興国を

ターゲットに、先陣を切ってビジネスを展開する。



〈最も印象深かった国—カンボジアの首都 プノンペン〉

海外販売先の一つであるプノンペンの経済発展はすさまじく、2つの巨大なイオンモールができており、街中には日本食の飲食チェーン店も多く出店しています。日本はカンボジアに日本文化(便利、清潔、リーズナブル、おいしい、かわいい)を浸透させようとしているように感じます。

一方、郊外や地方に行くと、舗装されていない道も多く、貧困に苦しむ人々が多い。1970年代の内戦のときに170万人が虐殺されたと言われており、高齢者は少なくあまり見かけません。

〈仕事で生きた経験〉

カナダやイギリスで学び働いたことで、**英会話力**がビジネスをする上でのアドバンテージになっています。

また、若いときに世界中をまわったことで視野が広がり、**グローバルな視点で物事を判断**できるようになりました。今では、世界のどこでもビジネスができるし、どこでも生きていく自信があります。

グローバルな視点を持つには、まずは**英語が話せること**。通訳を介していても友情は生まれれないのと同じく、ビジネスもうまく進みません。ビジネスも、友情や親しみ、**信頼関係**から発展するものです。

共通の言語でコミュニケーションをとることで、相手の習慣、文化、考え方、判断基準を知り、信頼関係が生まれる。お互いを知ること、尊重することが大切だと思います。



〈グローバルに活躍して感じる、日本と海外との違い〉

日本の社会は閉鎖的、封建的であり、上下関係を重んじる、従順さが求められるところがあり、自由な発想が生まれにくくなっていると思います。それもあってか、諸外国と比べると女性の活躍の機会が少ないと感じます。一方、日本人は繊細で几帳面、正直であり、時間を守ることが前提の社会はとても快適であると思います。

社会を堅苦しくしているのは自分たちで、固定観念に縛られず、人に自分がどのように思われているのかを気にすることなく、自分に正直に、自由に生きることができるようになりました。

〈出雲高校生へのメッセージ〉

ぜひ、海外に出ていく機会をつくってほしいです。内にこもらずに、勇敢でチャレンジングな青春時代を過ごしてください。これからの時代は、外国語力に加え、コミュニケーション力が必要不可欠だと思います。AIではできない仕事を追求し、自らの存在価値を高める努力をしてほしいです。

～グローバルレポート担当 滋野 紗世子～

出雲で育ったみなさんなら、一度は訪れたことのある出雲大社。今回お話を伺ったのは、その神門通りにあるいつも寒天工房を運営する会社の代表取締役社長さん。

出雲にいと「グローバル」という言葉に対して、自分たちは関係ないかな、とってしまうことありませんか？

しかし、グローバルとは海外に行くだけでなく、「島根県にいるから、グローバルな視点なんて必要ない」なんてことはないと思います。みなさんに、「グローバル」という言葉をもっと少しでも身近に感じてもらえたらいいなと思い、島根を拠点としながらグローバルに活躍される先輩にお話を伺いました。

興味があることにはどんどん挑戦して、たくさんのことを吸収して楽しい青春時代をすごしてくださいね。